

## 評価結果報告書

### 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4675700100
法人名	有限会社 エミ企画
事業所名	グループホームくりの
訪問調査日	平成 20 年 10 月 20 日
評価確定日	平成 20 年 12 月 1 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

#### 項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

#### 記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

#### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月24日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4675700100		
法人名	有限会社 エミ企画		
事業所名	グループホーム くりの		
所在地 (電話番号)	鹿児島県始良郡湧水町米永181-1 (電話)0995-74-1220		
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会		
所在地	鹿児島市城山一丁目16番7号		
訪問調査日	平成20年10月20日	評価確定日	平成20年12月1日

【情報提供票より】20年10月20日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成17年8月1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	16人	常勤9人, 非常勤7人, 常勤換算	13.3人

## (2)建物概要

建物形態	単独	改築
建物構造	鉄骨	造り
	2階建て	1階～2階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000円	その他の経費(月額)	5,000円(光熱費)	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 800円			

## (4)利用者の概要(9月30日現在)

利用者人数	15名	男性	3名	女性	12名
要介護1	4名	要介護2	2名		
要介護3	4名	要介護4	2名		
要介護5	3名	要支援2	名		
年齢	平均 81.6歳	最低	52歳	最高	92歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	田代医院・田中歯科医院・上原歯科医院
---------	--------------------


## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

幹線道路沿いで、周りには田畑が広がり、ホームからはいつでも栗野岳を仰ぎ見ることができる自然豊かな場所に、グループホームくりのが建っている。職員は、「自分の親ならどう接するか」ということを念頭において、利用者に家族のように寄り添うケアを心がけている。利用者にとって大切な食にも心を配っており、地元で採れる食材を使用し、自家製の味噌を作り、地産地消にこだわっている。また、看護師が職員として勤務し、利用者の健康管理をおこなっており、緊急時にも対応できる体制も整っている。利用者や家族にとって、穏やかに、安心して過ごせるホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>昨年の評価結果については4点の改善課題があり、地域とのつきあいは、子供達をホームに招いてレクリエーションを行ったりしている。日常的な外出の支援は、町内バスの利用には至っていないが、散歩やドライブなど行われている。事業所の多機能を活かした支援については、問い合わせ段階。栄養摂取や水分確保の支援は、栄養士のアドバイスは受けていないが、摂取量の記録は行われている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員に自己評価票を渡し、気づいた点などの記入を求めたが意見が上がらず、管理者と計画作成担当者でまとめている。</p>
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	<p>今年に入ってから不定期に2回開催されている。利用者の状況報告や事業所の取り組みについての説明を行い、参加者の意見交換をおこなっている。地域代表の出席者が、町議一人だけとなっているため、もっと地域の方々に参加してもらえるように働きかけ、幅広い立場の人が参加する会議とし、外部の人々の目を通して事業所の活動内容や、評価の改善課題を話し合う場になることを希望します。</p>
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	<p>玄関には、家族からの意見・苦情を受け付ける為の意見箱を設置している。年1回開催される家族会や運営推進会議でも、意見や苦情など言ってもらえるように配慮しているが、中々意見があがらず、面会時に個別に対応している。利用者一人ひとりについての要望などを家族から受けた場合は、連絡帳に記載し、職員が共有し話し合って運営に反映させている。</p>
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	<p>自治会に加入し、地域の行事に参加している。年4回事業所で発行している「ほほえみ通信」を、利用者と一緒に近隣に配っている。ボランティアの小学生と一緒にレクリエーションをして楽しんだり、中学校の職場体験の受け入れをしたりと、地域との交流を進めている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初から基本理念と活動目標を掲げている。地域密着型サービスになる前から、地域とのかかわりの大切さを認識した独自の理念となっている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内の数ヶ所に理念を掲示している。申し送り時に読みあげ理念の共有をしている。職員は、散歩の時には利用者と一緒に、地域の方にあいさつをしている。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の行事、豊祭(ほぜ)相撲大会や駅伝の応援などに参加したり、事業所で発行している新聞を、利用者と一緒に近隣に配ったり、地域の子供達を招待しレクリエーションを一緒に楽しんだり、中学校の職場体験を受け入れたりと、交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果については、職員に伝え改善に取り組んだ項目もあるが、継続的取り組みがなされているとは言えない。自己評価を実施する段階で、職員はその意義について理解していると言い難く、評価票に記入するまでに至らず、管理者と計画作成担当者でまとめ上げている。		管理者が、評価の意義を全職員に理解できるように説明し、評価を全職員で取り組むことで、ケアの振り返りや見直しを行うことができます。年1回の評価を計画的・継続的に取り組むことで、事業所の質の向上に繋がることを期待します。
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者の状況報告や事業所の活動報告などを行い、参加者の意見交換を行っている。自己評価の内容を説明したり、外部評価の結果を報告し話し合うまでには至っていない。		管理者は、運営推進会議の意義や役割を十分に理解し、幅広い立場の人に参加してもらえるように働きかけ、地域の理解と支援を得るための場にしていかれることを希望すると共に、年1回の評価を有意義なものにする為にも、評価結果を報告し、改善に向けた取り組みが行われるように期待します。

鹿児島県 くりの

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	相談事があれば町役場保健課を訪ねている。包括支援センターが主催する勉強会が、定期的に行われ意見交換をすることで、情報を得ることができている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用者の日頃の様子や、健康状態などを、利用者一人ひとりの担当職員が書面にて報告している。金銭については、家族からの預かりはせず、立替払いをしており請求書に領収書を添付して郵送している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見や苦情を受け付ける意見箱を設置し、年1回の家族会や、運営推進会議などで意見を出してもらえるように配慮している。また、面会時に個別に対応し、出された要望については職員と話し合い共有している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業所内の異動は行われていないが、馴染みの関係を築くための交流はしている。新しい職員が入った場合には、担当職員をつけて、利用者のダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は、質の向上委員会が中心になり、職員の学びたい内容を毎月のケア会議で勉強しているほか、事業所に介護専門講師を招いて勉強会を行うなど、職員育成に力を注いでいる。また、地域包括支援センターが主催する研修会もあり、職員は積極的に参加している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協議会に参加し、他のグループホームとの交流や包括支援センターが主催する研修会では、事例検討会が行われており、サービスの質を向上させていく取り組みがなされている。		包括支援センターが中心となって行なわれている研修会に、管理者や職員も積極的に参加し、ケアの向上に取り組んでいる姿勢が見られるが、今後、職員同士の相互訪問などを実現させることにより、事業所だけでなく地域全体のサービスの質の向上に繋がることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用者と家族に見学に来てもらい、雰囲気馴染んでもらうようにしている。体験入所も行っており、本人と家族が納得した上でサービスを開始している。入居しても落ち着かない方の場合には、家族の協力を得ながら馴染めるように努めている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>野菜作りや将棋・囲碁を教えてもらったり、一緒につるし柿を作ったり、男性の利用者には荷物を運んでもらったり、できることで力を発揮してもらっている。お風呂では、「気持ちよか」と穏やかな顔をされることに、職員は喜びを感じ、利用者ができないことが出来るようになったことで感動したり、共に支えあえる関係を築いている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時に本人や家族から暮らしの意向や思いを確認している。入居後は日々の会話の中から、思いを把握するように努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>毎月1回のケア会議には、職員全員が出席して利用者についての意見・要望・気づきなどを話し合った結果と、本人・家族の意見、主治医や看護師の意見などを反映させた介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>サービス実施状況に新たな変化がない場合でも、6ヶ月で見直しをしている。利用者の状態に変化があったり、家族の希望に変化があった場合にはその都度見直しをしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かし看護師による健康チェック、医療処置を受けながらの生活の継続支援、月に1度の医師による往診が行われている。また、家族の要望があれば通院介助も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族が希望するかかりつけ医となっている。事業所の協力病院の協力を得て、定期健診は往診してもらっている。受診内容については、変化があれば電話で報告している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今までに家族の希望で看取りを行っている。主治医、看護師、家族、職員で話し合い対応の方針を共有し、状態の変化に合わせて話し合いを繰り返し、連絡帳で方針を共有し対応している。急変時の対応手順も決めている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者個人の記録物については事務所内に保管している。プライバシーを損ねるような声かけには、十分注意を払っており、特に排泄の誘導の声が大きくなるように、管理者は職員に直接指導している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者一人ひとりの生活の流れを把握しており、その人のペースに沿った支援を行っている。天気のいい日には布団を一緒に干しに行ったり、散歩をしたり、囲碁・将棋をしたりと、レクリエーションもその場の状態を見てから柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者はそれぞれの力量に応じて、野菜の下ごしらえや盛り付け、配膳、後片付けなどを行っている。献立についても、好みの把握をしており、毎朝パンにしている方もいる。		利用者の機能低下により食事介助を必要とする方もおられるが、できるだけ同じテーブルで、一緒に食事を摂りながら介助できるような工夫をし、食事の時間が楽しみになるように希望します。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	湯船は24時間入浴できるように対応している。基本的には2日に1回の入浴としているが、本人の希望に合わせて柔軟に対応している。拒否する方には、声かけを工夫し午前中が難しい時には午後にしたたり、いつでも1番風呂だと伝えたりと工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれできることで役割をもってもらっている。洗濯物をたたむ、干す、落ち葉の掃除をする、花に水をやるなど、楽しみごとは職員と一緒に、干し柿作り、梅ちぎりに行き梅干作り、さくらんぼちぎり、弁当を持って栗野岳へ、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの敷地にある畑には毎日出ている。地域にコスモス畑があり車椅子の方も一緒に出かけたり、玄関前のベンチでおしゃべりしたり、行きつけの美容室に出かけたりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。外出傾向の方が多く1日に階段を何往復する人もいて、玄関にはチャイムをつけている。ひとりで外に出かけた場合には、地域の方にも協力をお願いしてある。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いで年2回消防訓練(夜間想定避難訓練、消火器の使い方)を行っている。非常時の連絡網も作成され、通報訓練の自主訓練も行われている。現在はスプリンクラー設置を検討中である。		事業所の近くに住んでいる職員の応援体制もできているが、運営推進会議で地域の協力を呼びかけ、協力体制を築いていくことが大切と思われるので、非常食の備蓄と共に、検討されることを希望します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量と水分量については、毎日記録しており、1ヶ月に1回は体重測定を行っており、職員は情報を共有している。利用者の嗜好を把握して、献立に摂り入れている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にある大きな樺の木は、葉を茂らせて掃除が大変だが利用者が毎日掃除している。1階も2階もオープンデッキになっていて、お茶を楽しむことも出来る。台所からリビングを見渡すことができ、風通しもよく明るく、廊下も広くゆったりとしている。壁にはカレンダーと笑顔の写真が飾られている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入り口には、本人の写真と名前を書いたプレートが掛けられている。戸は引き戸で障子風でとても落ち着いた懐かしさを出している。備え付けは、木製の畳式のベットと壁のボードで、テレビやタンス、テーブル、椅子、CDカセット、ぬいぐるみなど馴染みの物を持ち込んで、居心地よく過ごせるようにしている。		